

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第121回本部会議 記録

日 時／令和4年8月9日（火）  
15：30～：16：00  
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（小玉副知事）】

これより北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第121回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

### 【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは資料1をご覧くださいと思います。

まずスライドの1です。昨日8月8日時点で、新規感染者数は今週先週比が1を超える状況が引き続き継続しておりまして、人口10万対では札幌市1,029.0人、札幌市を除く地域で737.4人、全道で846.8人と全ての地域で過去最多を更新しておりますほか、療養者数も同様に増加傾向にあります。また、病床使用率ですが、札幌市が43.8%と50%に迫りますほか、札幌市を除く地域が29.4%、全道34.0%と引き続き増加傾向が続いております。

続いてスライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の今週先週比が全ての圏域で1を超えておりまして、人口10万対も多く圏域で過去最多を更新しているほか、療養者数も同様に増加の傾向が見られます。病床使用率ですが十勝圏で50%を超えるなど、全ての圏域で増加傾向が続いております。

続いてスライド3、総評1です。全国の状況です。新規感染者数の増加幅が減少しておりますものの、病床使用率は増加しております。国の専門家は一部地域ではピークを越えつつあり、新規感染者数が減少に転じた地域も出てきていると指摘しております。本道は他県と比較しますと、いずれも低い状況が続いております。

医療提供体制です。療養者数は人口10万対1,056.2人と、増加が続いております。病床使用率も増加傾向が続き34.0%と、先週から5ポイントの増加となっておりますほか、地域によっては十勝が54.3%と大きく増加している状況にあります。重症病床使用率は足下で増加してきており5.7%です。

感染状況です。新規感染者数は人口10万対で846.8人。年代別では引き続き30代以下の割合が約6割となる中、他の年代と比べ、10代を中心に増加幅が低くなっている一方で、60代以上の増加幅が高くなっている状況にあります。感染者がより増加しやすいBA.5系統は、国の専門家によりまして、流行の主流が、BA.2系統からBA.5系統に置き換わったと推定されると指摘されております。道内でもこれまでに145件が検出され、現在、道立保健所分の検出率は66.7%となっております。

続いてスライド4、総評2です。今後の対策です。全国的にBA.5系統を中心とする感染が拡大する中、本道の新規感染者数も直近では8月5日に過去最多を更新しております。

今後、お盆の時期を迎え、帰省など人の移動が活発化することにより、感染者数や入院患者数の更なる増加も懸念されるとの見通しの下、先を見越した対応を今、進めていくことが重要であり、道民の皆様や、事業者の方々と認識を共有していく必要があります。

道では感染リスクが高まる時期に向け、その認識の共有と取組の強化を図るため、本道における「BA.5対策強化宣言」を行い、道はもとより、道民、事業者の皆様がそれぞれの

役割を果たしながら「保健・医療提供機能の十分な発揮」「感染防止行動の徹底とワクチンの接種」「感染防止対策と社会経済活動の両立」といった取組を、「夏の感染拡大防止パッケージ」といたしまして、集中的に展開してまいります。

続いてスライド5、総評3です。ワクチン接種はオミクロン株に対応したワクチンや小児接種の努力義務化などについて国の審議会で議論されているところをごさいます。引き続き国の動向を注視してまいります。また、ノババックスワクチンの接種は、道内で現在8市町で接種が進められている中、新たに江別市が8月30日、岩見沢市が9月3日から接種を開始するなど、これを含めまして今後5市町で開始予定とされております。広域的な接種促進なども含めまして、国からのワクチン配分の動向を見据えながら、より多くの方が接種を受けられるよう、引き続き市町村との調整を進めてまいります。

続いてスライド6以降ですが、何点か主要な動向を補足説明いたします。

スライドを少し飛ばしましてスライド21をご覧くださいと思います。年代別の新規感染者数と入院患者数の推移ですが、まず表のグレーとピンクの棒グラフを見ますと、現在の新規感染者数は今年の1月から5月までのいわゆる第6波を大きく超えている状況にありますものの、オレンジの折れ線グラフですが、入院患者数を見ますと、第6波を下回っている状況にごさいます。

続いてスライド24をご覧くださいと思います。棒グラフの右側のとおり、新規感染者数は大きく増加している状況にある中、特に40代以上の増加幅が大きい状況です。また、左側の円グラフのとおりですが、感染者割合は引き続き30代以下の割合が最も高い状況にあります。足下では40代以上の割合が増加する一方で、30代以下の増加幅は小さくなっており、その割合は55%程度まで下がっている状況にあります。なお、60代以上につきましても実数で増加が見られるほか、先月1日には11%程度でありました構成比が、現在は16%を超える状況にあるなど、その割合も増加傾向にごさいます。

続いてスライド25をご覧くださいと思います。集団感染の発生状況ですが、札幌市、また札幌市を除く地域とも昨今の感染者数の急増に伴いまして、足下で件数、また感染者数ともに大幅に増加している状況にあります。

スライド26をご覧くださいと思います。ワクチンですが、左側の表、3回目接種は、8月7日現在ですがVRSベースで約342万8,000人、接種率でいきますと65.6%、このうち65歳以上は約150万8,000人で、接種率は90.4%、さらに右側の表、4回目接種ですが、これまで約62万8,000人が接種し、このうち60歳以上は約60万2,000人で、接種率は30%、下段の表の小児の接種ですが、接種率でいきますと、1回目21%、2回目が19.2%と全国を上回る状況が継続しております。

続いてスライドの27をご覧くださいと思います。3回目接種の年代別状況ですが、65歳以上が高い水準の中で、10代は35.6%でありまして、また、20代、30代は全国の接種率を上回り、50%を超えてはおりますものの、他の年代より低いことや、現在、感染の急拡大が続いていることも鑑みまして、これらの年代のさらなる接種加速化に向け、引き続き市町村の取組を積極的に支援してまいります。

続いてスライド29をご覧くださいと思います。丸の一つ目になります。人の移動や世代間交流が活発となる夏休みやお盆シーズンに向けた接種率向上の取組としまして、丸の二つ目ですが、特に若年層をターゲットに、札幌市と共同の市営地下鉄車内広告に加えまして、丸の三つ目、感染急拡大を踏まえ、高齢者はもとより、これまで3回目接種を受けていない方への情報提供ですとか、接種希望者への対応など、道のセンターも活用しな

がら、引き続き市町村と連携し、取組を進めてまいります。

続いてスライドの32をご覧くださいと思います。丸の一つ目です。道のセンターでのノババックワクチンですが、道民の皆様の高い関心の中、8月28日（日）接種分も既に予約枠を満たしている状況にありまして、来月9月4日（日）接種分は、来週8月16日（火）から予約を受け付けいたします。

丸の三つ目です。道の接種センターでのモデルナワクチンの3回目と4回目接種ですが、引き続き空きがありますので、広く接種を呼びかけてまいります。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータや情報でございますので後ほどご覧いただければと思います。

私からの説明は以上になります。

### 【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

### 【山口札幌市感染症担当部長】

資料2をご覧ください。札幌市の感染状況についてご説明をいたします。

それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計につきましては、昨日の時点では2万185人、人口10万人当たりでは1,029.0人となっております。先週と比べまして、感染拡大のスピードが緩やかになっておりますけれども、感染拡大傾向は継続しておりまして、引き続き警戒が必要な状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況でございます。黄色の折れ線グラフ、入院患者数でございますけれども、昨日の時点では300人、重症患者は赤の棒グラフでございまして1人となっております。入院患者数は急増はしておりませんが、医療機関では院内での陽性者の発生に加え、医療従事者が陽性となったり、濃厚接触者に該当することによる出勤困難事例が発生するなど、医療への負荷は高まっている状況でございます。こうした状況を踏まえまして、札幌市では入院待機ステーションの活用も図りながら、入院治療を必要とする患者が確実に入院できるよう、調整を図っているところでありまして、また、入院の状況を見ても、重点医療機関以外の医療機関にも入院されている方が相当数いらっしゃるところでございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数につきましては、直近の1週間では検査件数が2万7,393件でございます。1日平均では約4,000件の検査を実施しておりまして、その陽性率でございますけれども、昨日の時点で73.7%と増加が続いているところでございます。

夏休みやお盆期間は人と接触する機会が増えることから、場面に応じた基本的な感染対策の徹底とワクチン接種の促進が重要と考えてございます。

また、現状はいつ誰が感染してもおかしくない状況にありまして、感染した場合に備えて、食料品や日用品、市販の解熱剤等をあらかじめ準備しておくことも重要ではないかと考えております。

以上でございます。

## 【副本部長（小玉副知事）】

次に、夏の感染拡大防止パッケージについて総合政策部長から説明をお願いします。

## 【濱坂総合政策部長】

それでは資料3、夏の感染拡大防止パッケージ案をご覧くださいと思います。

スライド2をお願いします。これからお盆の時期を迎え、帰省など人の移動が活発化することで感染者数や入院患者数がさらに増加することも懸念されますことから、北海道として「BA.5対策強化宣言」を行い、道、道民の皆様、事業者の方々がそれぞれの役割を果たしながら、「夏の感染拡大防止パッケージ」として3つの取組「保健・医療提供機能の十分な発揮」「感染防止行動の徹底とワクチンの接種」「感染防止対策と社会経済活動の両立」この3つの取組を集中的に展開してまいります。

なお、取組の期間は8月10日から8月31日までとし、対象地域は全道といたします。

スライド3をお願いします。パッケージの主な内容についてでございますが、取組の1、「保健・医療提供機能の十分な発揮」でございますが、まず、道が行う取組としては、①の保健所の対応力の強化として、感染者数に応じ民間委託した健康観察業務の対応可能件数を増強いたします。②の検査・外来体制の確保として、発熱外来の機能を維持するため、抗原定性検査キットの活用促進に向けた体制整備を加速いたします。③の医療・療養体制等の充実・強化といたしまして、病床使用率が高い圏域の即応病床を、8月12日にフェーズ3に引き上げるなどの取組を行うこととしております。

スライド4をお願いします。取組の2「感染防止行動の徹底とワクチンの接種」でございますが、道民の皆様、道内に滞在される皆様の取組について、①の基本的な感染防止行動の徹底と感染への備えとして、お盆の時期は混雑している場所や感染リスクの高い場所はできる限り避けて行動すること、感染した場合に備え、解熱剤や3日間程度の食料等を用意することなどをお願いをしたいと思います。そのほか②の高齢者施設・学校・保育所等の感染防止対策の徹底や、③のワクチン接種の積極的な検討などをお願いいたします。

スライド5をお願いします。取組の3です。「感染防止対策と社会経済活動の両立」でございますが、事業者の方々の取組についてでございます。①の事業継続計画の再確認をいただくこと、それから②の各事業者における感染防止対策の徹底として、業種別ガイドラインを遵守することをお願いいたします。③の利用者との協力による感染防止対策の徹底といたしまして、どうみん割などの事業展開を通じた事業者と利用者の双方が感染拡大防止に取り組み、その普及・定着を進めていくこととしております。

これらの詳細につきましては、別添のスライド7から13に記載してございますので後ほどご覧くださいと思います。

次にお手元にお配りしております資料4をご覧くださいと思います。「夏の感染拡大防止パッケージ」につきましては、有識者及び専門家のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の皆様にも事前にお知らせをしておりますのでございます。有識者や専門家の皆様からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、1-①でございます、人の活動が活発になるお盆の時期を控え、保健・医療提供体制の更なる強化を図るとともに、道民の皆様に感染防止行動の徹底を呼びかけることは重要である。1-②でございます、一人一人が気をつけるとともに、関係機関の体制強化を適切なタイミングで実施することが重要である。といったご意見をいただいたところでございます。

次に市町村、関係団体からも概ね妥当であるというご意見でございましたが、2-②で

ございます、様々な事業を実施していくには道民の理解と感染防止対策の協力が必要不可欠であり、北海道として経済活動との両立を目指していることをわかりやすい表現で伝えることが重要である、などのご意見をいただいたところでございます。

なお、先に開催いたしました「新型コロナウイルス感染症対策有識者会議」並びに「新型コロナウイルス感染症対策専門会議」においてご意見をいただきました、道民の行動、注意事項の周知を道や関係者が一体となって実施していただきたい、丁寧な情報発信に努めてほしいなどのご意見をいただきましたので、この度の夏の感染拡大防止パッケージにつきましても、それらのご意見も踏まえながら取りまとめたものでございます。

以上でございます。

### 【副本部長（小玉副知事）】

只今説明のあったとおり、夏の感染拡大防止パッケージについて決定したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。ではそのように決定いたします。

このほか各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長お願いいたします。

### 【本部長（知事）】

皆様に大変ご心配おかけいたしましたけれども、体調も回復いたしまして、本日から職場に復帰いたしました。私自身、今回陽性確認となりまして、自宅で療養させていただきました。こういった経験も踏まえまして、現在療養されてる方、自宅で療養される方も増えてます。そういった方々、そして入院されております方々、ご家族の方々、そういった皆さんの不安にこれまで以上にしっかりと寄り添いながらこの対策を講じていきたいというふうに考えております。引き続き、皆さんよろしくようお願い申し上げます。

道内の本日の新規感染者数でございますが、5,546人となっております。人口10万人当たりでは846.8人と増加傾向が続いております。全道の病床使用率については34%となっております。地域によっては大きく増加しています。

また、重症病床使用率ですが5.7%と足下で増加してきております。今後の病床の見通しについてですが、現在の増加傾向を踏まえますと、来週には2月下旬のオミクロン株の際の水準であります40.1%、2月下旬の水準を超えることになると予想しております。こうした中で今週からお盆の時期を迎えます。帰省などで人の動きが活発化し、感染者数や入院患者数がさらに増加することも懸念されます。先を見越した対応が重要になってまいります。

こうした状況について、道民の皆様、事業者の方々としっかりと認識を共有するとともに、こうした取組の強化を図っていくため、北海道における「BA.5対策強化宣言」を行い、道民の皆様、事業者の方々が、それぞれの役割を果たしながら、8月末までの期間「夏の感染拡大防止パッケージ」といたしまして、集中的に取組を展開してまいります。このパッケージに基づきまして、道としては、まず、検査の対応を強化していきます。地域によっては、診療・検査医療機関で検査キットの不足が見られることから、必要な抗原定性検査キットについて明日10日から順次配布を始めます。

さらに患者数の増加に伴う医療機関などの負担を軽減していくため、既に札幌市で行われているわけですが、今後、札幌市以外での感染拡大も見越して、医療のひっ迫が見られる地域におきまして、重症化リスクの低い有症状の方に対しまして、検査キットを配布し、医療機関を受診することなく、検査結果がわかる体制を、8月中旬以降、順次構

築してまいります。

そして、今後の入院患者の増加を見越した対応もしてまいります。病床使用率が増加している札幌市を含む道央圏と十勝圏の即応病床のフェーズを最も高い「3」に、8月12日から引き上げます。

また、お盆の時期、混雑している場所などを避けていただき、特に、重症化リスクの高い高齢者の方々、基礎疾患のあるの方々、そしてそうした方々とお会いになる方々の双方が慎重に行動していただくことが重要であります。道民の皆様には基本的な感染防止行動をより一層徹底していただくようお願いいたします。

併せて事業者の方々にもBCPの点検、そして、利用者の方との協力によります感染防止対策の徹底をお願いいたします。

本部員、地方本部員におかれましては、8月末までの間、このパッケージに基づきまして市町村、関係団体と連携をしながら、道民の皆様、事業者の方々とともに取組を進めていただくよう指示いたします。よろしくようお願い申し上げます。

私からは以上です。

**【副本部長（小玉副知事）】**

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。以上をもって新型コロナウイルス感染症対策本部の第121回本部会議を終了いたします。

（了）